

# 卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	名古屋大学	整 理 番 号	1909
プログラム名称	情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス 卓越大学院		
プログラム責任者	門松 健治	プログラムコーディネーター	勝野 雅央
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラムは情報学と生命医科学の双方に精通しグローバルに活躍できる卓越リーダーの育成を目指している。カリキュラムを適切に運営する体制は順調に機能しており、概ね当初の計画に沿った学生の指導が円滑に実施されている。</li> <li>カリキュラムについては、「基礎系科目（プレ卓越）」、「デジタル生命医科学系科目」及び「マルチレイヤー生命医科学系科目」がバランス良く整えられており、文理融合への取組も進められている。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大のなか、プログラムの質を担保すべくオンラインセミナーやオンラインによるグループディスカッションなどを非常に上手く活用している。</li> <li>東海国立大学機構の構想の下、岐阜大学との連携も円滑に進んでおり、ITの活用によるバーチャルキャンパスを実現することによってマルチキャンパスに伴う困難を解消していくことが見込まれる。また、本プログラムでは名古屋大学の学生IDを岐阜大学の学生に発行する取組なども進められており、東海国立大学機構としても共通IDを作るプロジェクトが進んでいる。本プログラムを契機とした東海国立大学機構の一層の発展が期待される。</li> <li>優秀な学生の募集・獲得に成功しているように見受けられ、また学生を奮起させるような教育体制が整備されている。</li> <li>学生支援の取組が十分になされているため、経済的な面やオンライン講義の充実などにおいて学生の学修環境に対する満足度が高い。</li> <li>名古屋大学の医学系研究科で進行中の「奥三河メディカルバレープロジェクト」が本プログラムの教育へ応用されることで、今後本プログラムの成果が実際の医療として地域に貢献していくことが期待される。</li> </ul> <p>【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学院教育のプラットフォームとなっている「博士課程教育推進機構」と連携することで、全学に波及させる体制の整備を工夫しており、本プログラムを通して、学生の受入から学生の育成・評価、学位の付与の仕方までを含めた大学院教育改革が具体的に進行していくことが期待される。また、このような改革が東海国立大学機構内の連携先機関である岐阜大学まで波及することが期待される。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な情報学の知識がない学生が、始めから先端的な情報学を習得していくことができるかについて懸念がある。このような学生でも、先端的な情報学を十分理解できる形で学べるようなカリキュラムの工夫が必要である。</li> <li>プロフェッショナルリテラシーについては内容が淡白になりがちであることが懸念されるため、学生がより興味を持って取り組めるような学習上の工夫を検討されたい。</li> </ul>			

- 学生と教員の交流を図る「100人論文」などの企画が有効に機能しているようだが、学生の学修意欲を促すために本プログラム内外での学生、教員、企業などとの一層の交流を促すような仕組みを作るよう検討されたい。
- 初年度予算で本プログラムに必要とされる設備備品を購入しているが、これらの設備備品を本プログラムの学生が十分に利用して研究に取り組めるような環境の整備が必要である。